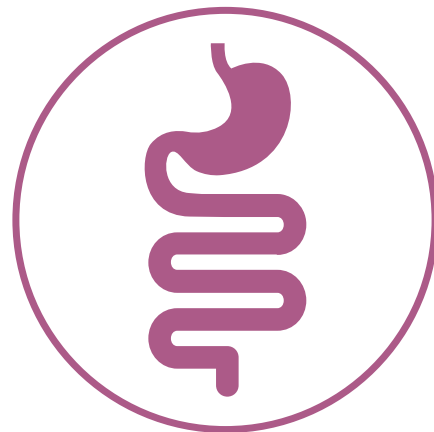




消化器系疾患

猫の慢性胃腸症

持続的または反復的な断続的嘔吐は、慢性胃腸症の猫に見られる主な臨床症状です。慢性的な嘔吐は、下痢、体重や体調の損失、食欲不振、筋肉の衰え、毛並みの乱れなどを伴うことがあります。これらの症例の多くでは、一般的に胃腸 (GI) 粘膜の炎症が想定されますが、病理組織学的に確認されません。



猫の慢性胃腸症の一般的な原因としては、感染症（細菌、ウイルス、寄生虫または原虫感染）、食物有害反応、不摂生な食事、新生物、運動障害および胃潰瘍が含まれることがあります。膵臓、肝臓、腎臓、神経疾患、甲状腺機能亢進症、ジロフィラリア感染症などの全身疾患の二次性症状として、他の胃腸症状を伴う、または伴わない慢性嘔吐も起こり得ます。胃腸の病気がなくても毛玉が原因で嘔吐することがあります。

急性胃腸症の猫の栄養管理の目標は、猫の栄養要件を満たし、胃腸粘膜への刺激を最小限に抑え、胃腸からの消化液の過度な分泌を低減し、胃および腸の正常な運動をサポートし、胃の排泄を促すことです。

キーメッセージ

- 慢性胃腸症の猫には、除脂肪体重の減少を最小限に抑え、主要栄養素（例、タンパク質、脂肪または炭水化物）の消化や吸収障害を管理し、腸内細菌叢の異常に対応できるように、消化が良く嗜好性の高い、高タンパク質配合の食事を与える必要があります。
- 臨床症状の根本的な原因として食物不耐性や食物アレルギーが疑われる場合には、加水分解タンパク質や新規タンパク質成分を使用した食品が選択される場合があります。
- 猫では食事脂肪が胃排出を遅らせることはないため、胃腸症状のある猫の管理では通常、脂肪制限食は必要ありません。
- Purina の研究では、食事の脂肪の量は慢性下痢症の猫の臨床反応に影響を与えないことが示されています。
- 吐き気や嘔吐が食物嫌悪を引き起こす猫もいるので、現在の胃腸障害の前に与えていた食事とは異なる食材を使った食事を与えることも検討してください。

ご存じでしたか？

猫の飼い主の中には、慢性的あるいは断続的な嘔吐を猫の飼育の一部として普通に受け入れている人もいます。胃腸症の可能性を発見するためには、毎回の診察時に、猫の体重や体の状態を把握することに加えて、胃腸の兆候についてオーナーに積極的に尋ねることが重要です。

(次のページに続く)

キーマッセージ (続き)

- 慢性胃腸症の猫にとって、脱水症状や電解質のバランスが崩れる危険性があるため、水は重要な栄養素です。軽度の水分不足の猫は、経口水分摂取や皮下水分投与で管理することができます。しかし、中等度から重度の脱水症状のある猫には、必要に応じて、静脈内輸液と電解質補給を行う必要があります。
- 嘔吐や下痢を誘発しないよう、食事の形状や回数は、疑わしい疾患や胃腸の部位に合わせる必要があります。
 - 食物の形態 (例: 液体、缶詰、乾燥) は、胃が空になるまでの時間に影響します。液体食が最も早く胃から排出され、次いで缶詰、最後にドライフードとなります。
 - ウェットフードやドライフードに温かい水を加えて水分量を増やすと、嗜好性を改善しながら体液の損失を補うことができます。
 - 胃腸の病気の患者さんには、少量で頻度の高い食事 (例えば、1日3~6食) が有効な場合があります。少量の食事を頻繁にとることで、胃の膨満感を最小にし、胃酸の分泌を抑え、胃の排出を促進します。この戦略は、栄養吸収を改善し、有害な胃腸反応 (例: 嘔吐や下痢) を最小限に抑えるのにも役立ちます。
 - 胃腸炎が治まれば、5~7日間かけて徐々に猫の普段の食事に移行することができます。しかし、疑われる根本的な原因によっては、治療食を継続する必要がある猫もいます。

追加のリソース

Guilford, W. G., Jones, B. R., Markwell, P. J., Arthur, D. G., Collett, M. G., & Harte, J. G. (2001). Food sensitivity in cats with chronic idiopathic gastrointestinal problems. *Journal of Veterinary Internal Medicine*, 15(1), 7-13. doi: 10.1111/j.1939-1676.2001.tb02291.x

Laflamme, D. P., Xu, H., & Long, G. M. (2011). Effect of diets differing in fat content on chronic diarrhea in cats. *Journal of Veterinary Internal Medicine*, 25(2), 230-235. doi: 10.1111/j.1939-1676.2010.0665.x

Norsworthy, G. D., Estep, J. S., Kiupel, M., Olson, J. C., & Gassler, L. N. (2013). Diagnosis of chronic small bowel disease in cats: 100 cases (2008-2012). *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 243(10), 1455-1461. doi: 10.2460/javma.243.10.1455

Perea, S. C., Marks, S. L., Daristotle, L., Koochaki, P. E., & Haydock, R. (2017). Evaluation of two dry commercial therapeutic diets for the management of feline chronic gastroenteropathy. *Frontiers in Veterinary Science*, 4, Article 69. doi: 10.3389/fvets.2017.00069

Saker, K. E. (2010). Gastroenteritis/vomiting – feline. In *Nestlé Purina PetCare handbook of canine and feline clinical nutrition* (pp. 60-61). Nestlé Purina PetCare Company.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。